

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 29 年 6 月 5 日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25370605

研究課題名(和文) 複数言語環境で育つ若者の自己形成・キャリア形成を支える日本語教育実践の開発

研究課題名(英文) Japanese language education supporting self-development and career development of learners who grew up in a multilingual situation

研究代表者

尾関 史(OZEKI, FUMI)

早稲田大学・日本語教育研究センター・その他(招聘研究員)

研究者番号：00505399

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、複数言語環境で育ってきた若者たちに対して自己形成・キャリア形成を支える日本語教育実践を構想することを目的としたものである。まず、複数言語環境で育ってきた若者が必要とする日本語教育とはどのようなものかを若者たちおよび教師たちへのインタビュー、教育実践の視察、教員との交流をもとに探った。そして、それらの知見をもとに日本語教育実践をデザインした。調査研究の成果は口頭発表および論文の形で公表しており、今後も引き続き分析・考察を進めていく予定である。

研究成果の概要(英文)：This study attempts to design Japanese language education that support learners' self-development and career development. Firstly, through interviewing Japanese language learners, who grew up in a multilingual situation, and their teachers, what kind of Japanese language education is needed was studied. The study also did an observation of language class and interacted with teachers. Based on these results, I designed Japanese language courses. The outcomes from this research have been presented at academic conferences and in the following papers. This study will be continued to design better language courses.

研究分野：年少者日本語教育

キーワード：年少者日本語教育 継承語教育 複数言語環境 キャリア支援 教員研修 カリキュラム アイデンティティ

## 1. 研究開始当初の背景

近年、日本語学習者の多様化により、それぞれの学習者が必要とする日本語が多様化している。それに伴い、日本語教育の内容も単に教室で知識として日本語を教えるだけではなく、教室の外に広がる学習者の人生の中で日本語を学ぶことがどのような意味を持っているのかという視点から捉えなおす必要性が指摘されている。特に、これから社会に出て行く高校生や大学生などの若い学習者たちにとっては、自己形成やキャリア形成の過程において日本語を学ぶことがどのような意味を持つのか、自己形成・キャリア形成を支える日本語教育実践とはどのようなものであるのかを明らかにし、自己形成・キャリア形成を支えていくための日本語教育のあり方を模索していくことが求められている。しかし、現在、若者たちに対する支援は教科学習支援や日本語学習支援を主な目的としたものが大半で、進学支援、キャリア支援といった視点に注目して構想された教材や教育実践はほとんど見当たらない。彼らにとって、日本語や学習の知識をつけていくことと同時に、自らの将来を描き、将来を切り開いていく力をつけていくことが必要だと考える。

申請者はこれまで約 10 年間にわたり、国内の日本語を母語としない子どもたちの言語教育支援に携わる中で言語教育のあり方を模索してきた。一連の研究から、子ども自身の意識が学びを大きく左右すること、特に、子どもが学びに自分なりの意味を見出すことで、学びに主体的に関わるようになり、日本語の学びと自らの生き方を有機的に連続させていけるようになることが明らかになった。このように、小学生から中学生年齢の子どもに対しては実践や研究を積み重ね、支援のあり方を提案してきた。一方で、調査研究を行う中で、高校生や大学生の年齢にあたる若者たちが自らの将来を描けず、進路に悩

む姿を目の当たりにしてきた。彼らは親の都合で移動を余儀なくされるため、日本語能力や学習能力の不足に加え、今後の滞在予定が定まらず、身の回りに将来のロールモデルとなる人物が少ない。そのため、自らの将来を描きにくい環境にある。しかし、彼らに対する支援は学習支援が大半であり、キャリア支援の観点からの支援はほとんど見られない。さらに、近年、幼少期に複数言語環境で育った経験を持つ大学生・留学生の若者たちも増えている。彼らの多くは卒業後あるいは帰国後の進路に悩み、迷っている。また、キャリア形成の過程において自らの持つ複数の言語や文化をどのように位置づけていけばよいかについて迷い、悩んでいることが少なくない。

そこで本研究では、複数言語環境で育ってきた若者が必要とする日本語教育とはどのようなものをインタビューを通して明らかにし、それらの知見をもとに複数言語環境で育ってきた若者たちの自己形成・キャリア形成を支えていくための日本語教育実践を考えていくことを目的とした。

## 2. 研究の目的

本研究では、以下の3点について明らかにすることを目的とした。

- (1) 複数言語環境で育ってきた若者（高校生および大学生）が必要とする日本語教育とはどのようなものを若者たちおよび支援者に対するインタビューを通して明らかにする。
- (2) (1)の考察結果を踏まえ、複数言語環境で育ってきた若者に対する日本語教育実践をデザインする。
- (3) (2)でデザインした日本語教育実践を実施し、そこでどのような学びが見られるのかを分析・考察する。

### 3. 研究の方法

研究は、以下の(1)～(5)の手順で進めた。

#### (1)複数言語環境で育った若者たち・支援者へのインタビュー調査

外国籍児童生徒、帰国生、国際結婚家庭の子どもなど複数言語環境で育ってきた若者および彼らの支援にあたっている教員・ボランティア支援者を対象としてインタビュー調査を行った。インタビューでは若者たちの受けて来た日本語教育について語ってもらう中で、彼らに必要な日本語能力および日本語教育実践について探った。

#### (2)海外の教育現場の視察・教員との交流

海外の中等教育の現場で日本語教育に携わる教師との交流、現地での授業見学等を通して、海外の中等教育現場の実態の把握を行った。そして、それらの状況を踏まえ、現地の教師と共に日本語教育実践のあり方を探った。

#### (3)自己形成・キャリア形成に注目した日本語教育実践のデザインおよび実施

(1)(2)で得られた知見をもとに、国内における留学生向けの日本語授業において自己形成・キャリア形成に注目した授業をデザインし、実施した。また、海外で日本語教育に携わる教員を対象とした教員研修において、ライフデザイン・キャリア形成を意識した日本語教育実践をデザインし、実施した。

#### (4)授業における日本語学習プロセスの分析、考察

(3)でデザインした日本語授業実践を通して見られた学びについて分析・考察した。

#### (5)研究成果の公表

インタビュー調査、実態調査、授業実践から得られた知見をまとめ、国内外の学会・研究会で口頭発表・ポスター発表の形で公表した。また、口頭発表・ポスター発表で得られたフィードバック等を盛り込み、成果を学術論文としてまとめ、国内外の学会誌に投稿した。さらに、これらの学術的な研究成果の公表に加え、子どもたちにとっての学びの場となる機会の多い地域のボランティア教室の支援者を対象とした講座などにおいても本研究から得られた知見を広く公表した。

### 4. 研究成果

#### (1)研究の主な成果

複数言語環境で育った若者たちへのインタビュー調査、国内外の年少者日本語教育実践の視察や実態調査を踏まえ、若者たちが必要としている日本語教育実践について考察を深めた。これらの成果の概要は以下のようにまとめられる。

・国際結婚家庭における日本語の継承には従来の研究で指摘されてきた母親の努力だけでなく、言語を学ぶ子ども自身の意識が大きな影響を与えていることが明らかになった。そして、母と子の双方が自分にとっての日本語継承の意味を感じながら日本語教育・日本語学習に取り組んだことが日本語継承への意味づけを肯定的なものとし、積極的な日本語継承へとつながっていることが明らかになった。(論文)

・多様な背景を持った学習者がともに学ぶ海外の日本語学習環境において、日本語学習は知識としての日本語の習得にとどまらず、生徒たちの気持ちや日常生活における言語使用、そして、彼らの人生設計にも影響を及ぼしていく可能性を持つものであることが明らかになった。また、教師は生

徒たちの多様性を受け入れながら、それらの違いを生かした実践のあり方を模索していることがわかった。(学会発表、論文)

これら一連の調査の結果や研究成果を踏まえ、以下のような授業実践およびイベントの企画を行った。

- ・国内の複数言語環境で育つ子どもたちを対象とした進路支援・キャリア支援のイベントを企画し、実施した。そして、イベントの成果と課題を報告した。(学会発表)
- ・国内の日本語学習者を対象とし、多様な他者が集う教室でことばを使って他者と出会い、関係を築き、その関係の中で自己を見つめなおす経験を重ねていくことを目指した日本語教育実践を試みた。そして、実践の意義および成果について教師・学習者それぞれの面から考察した(論文)
- ・海外の中等教育機関で日本語を教える外国人教師に対し、教員養成プログラムの一環として、自己形成・キャリア形成を支える言語教育実践の実施に向けた試みを行った。(学会発表)

なお、それぞれの知見および成果については口頭発表および論文の形で広く公表してきた。

## (2)得られた成果の国内外における位置づけ およびインパクト

本調査研究で得られた成果はこれまで多くの日本語教育実践において目指されてきた知識の習得にとどまらず、若者たちの生き方や将来設計、また、アイデンティティ形成に働きかけていくような日本語教育実践のあり方を提案している点において意義があ

るといえよう。そして、そのような考え方に基づいた教育実践を実際に試み、その成果と課題を検討することで、教育現場に実践的かつ具体的な示唆を与えている点においても有益であろう。

本研究で対象としている子ども(若者)たちは、国境を越えた移動を繰り返しながら成長を続けている。そのため、国内・海外の双方から継続的に学びを支えていくことが重要である。本研究では、国内・海外それぞれの現場の状況を踏まえた上で、それぞれに対して適切な教育実践をデザインし、実践してきた。また、国内外の実践者・教育者が集う場において、広く研究の成果を公表し、フィードバックを受けてきた。これらのことから、本研究の成果は、国内・海外の双方の現場にとって有益なものになり得るだろう。

## (3)今後の展望

今後の展望として以下のような展開を考えている。

- ・調査研究データの分析・考察の継続  
今回の調査研究で得られたデータを引き続き分析・考察していく。なお、分析・考察から得られた知見は今後も口頭発表、論文などの形で公表していく予定である。
- ・具体的な教育実践の検討の継続  
特に海外での教育実践は緒に就いたばかりである。引き続き、現地の教員と協働しながら実践研究を続けていきたいと考えている。

5. 主な発表論文等  
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計3件)

尾関史(印刷中)「継承語話者・外国語話者・母語話者が共に学ぶ教室での日本語学習の意味—ハワイの高校の日本語クラスで

の「言語ポートレート」活動からの考察—  
『母語・継承語・バイリンガル教育(MHB)  
研究』査読有, 13

尾関史(掲載決定)「日本語授業としての  
ライフストーリー活動の可能性—教師と学  
習者の変化から探る実践の意義—」『アカデ  
ミック・ジャパニーズ・ジャーナル』査読  
有, 9

尾関史・青木優子(2015)「韓日国際結婚  
家庭の日本語継承を支えるもの—母と娘の  
語りから見る継承日本語教育—」『日語日  
文学研究』査読有, 第93集1巻, pp.279-303.

[学会発表](計4件)

尾関史(2016)「継承語話者・外国語話者・  
母語話者が共に学ぶ教室での日本語学習  
の意味—ハワイの高校の日本語クラスでの  
「言語ポートレート」活動からの考察—」  
母語継承語・バイリンガル教育(MHB)  
研究会2016年度研究大会(2016年8月8  
日)お茶の水女子大学(東京都・文京区)

尾関史(2015)「自己形成・キャリア形成を  
支える言語教育実践を目指して—海外中等  
教育日本語教師研修での試み—」日本語教  
育学会 第9回研究集会中国地区(2015年  
12月27日)広島女学院大学(広島県・広  
島市)

尾関史(2015)「日本語教員研修としてのラ  
イフストーリー活動の可能性—海外日本語  
教師研修プログラムにおける実践から—」  
日本語教育学会2015年度秋季大会(2015年  
10月11日)沖縄国際大学(沖縄県・宜野湾  
市)

藤倉遥・尾関史・武一美・古賀和恵・人  
見美佳・山口静香(2015)「外国につながる  
高校生のキャリア支援を考える—「大学に  
いってみようプロジェクト」の試み—」  
2015年度実践研究フォーラム(2015年8  
月2日)於:国際交流基金(埼玉県・浦和)

[図書](計1件)

尾関史(2015)「子どもたちの学びを捉え  
る方法をめぐって—わたしは子どもたちと  
どう向き合ってきたのか—」館岡洋子編『日  
本語教育のための質的研究入門—学習・教  
師・教室をいかに描くか』ココ出版,  
pp.183-200.

[その他]

「年少者に対する日本語教育」コースコー  
ディネーター・講師、朝日カルチャーセン  
ター 朝日 JTB・交流文化塾「日本語教師  
養成講座」(2014年1月~3月、7~9月、  
2015年1月~3月、7~9月、2016年1月  
~3月、7~9月)於:朝日カルチャーセン  
ター新宿教室

「年少者のための日本語教育」日野国際友  
好クラブ主催「ボランティア教師養成講  
座・実践コース」(2013年11月19日、26  
日)於:日野市中央公民館

6. 研究組織

(1) 研究代表者

尾関 史(OZEKI, Fumi) 早稲田大学・日  
本語教育研究センター・招聘研究員  
研究者番号:00505399

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)